

細江カトリック教会だより 11月号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

カトリック葬儀について

死者の月にあたって、カトリック葬儀について改めて考えたいと思います。

およそ人間は神さまによって造られたもの、神さまに呼ばれて世に生を受けたものですから、どのような人も一人ひとり、神さまから期待された、その人なりの生きる意味、かけがえのない尊厳というものをもっています。

人生の意味は業績や名誉や地位ではありません。どんなに仕事に成功しても、どんなに財産を築いても、それによって人間は幸せになるわけではありません。人間は与えられた知性と意志をもって、神さまの愛を受けとめるために造られています。だから神さまの愛に目覚め、それに応えようとするときに、初めて真の喜びを見いだします。

そして人生にとってもっとも大切な瞬間は、死を迎える時です。死はそれぞれの人生の営みを、神さまの前で最終決定的なものとしてお捧げする時だからです。

そのように考えるなら、カトリック信者にとって幸せな葬儀とは、決定的な信仰の表明として自分の無力の身を神さまのみ手に委ね、聖徒の交わりの中で送りだしてもらうことを表すカトリック葬儀ではないでしょうか。もし家族の中で自分だけがカトリック信者であれば、生前にその旨をよく家族に話して、教会で葬儀をするように頼んでおいてください。

日本のカトリック教会では、教会で葬儀をあげてもらうのは次の人と決められています。

①洗礼を受けたカトリック信者。

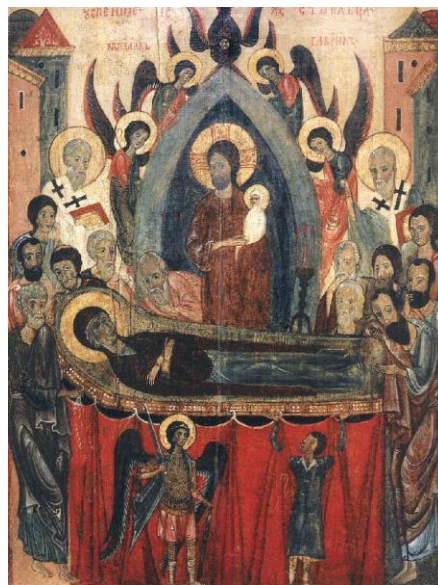
②入門式を受けた求道者。

③両親が洗礼を受けることを意図していた幼児。

④カトリック以外のキリスト者で、事情により所属教会の葬儀の提供を受けられず、本人と遺族の要望があるとき。

⑤本人と遺族の要望があるときカトリック信者の配偶者や親子。

ただし、③や⑤の場合には、できるかぎり生前に臨終の洗礼を受けることが勧められます。司祭がいなくても緊急の洗礼を受けることができるように、その正しい授け方を、ふだんから心得ておくことが大切です。



公然の背教者は教会の葬儀から除外されます。しかし、本人が病気で明確な決定能力がない場合は背教者とはみなされません。

教会での葬儀は、所属小教区の聖堂で行われるのが原則ですが、事情によって主任司祭に連絡した上で他の小教区の聖堂で行うこともできます。遠隔地で亡くなった場合などがそれです。

最近あまり盛大に行わない、簡素な「家族葬」を望む方々も少なくありません。その場合、通夜(もしくは仮通夜)

は家庭で行うことも不可能ではありませんが、それでも葬儀ミサと告別式は教会共同体によって、聖堂で行われることがふさわしく、典礼会館などは望ましくありません。

そのほか、わからないことがあったら、主任司祭か教会の事務局にお尋ねください。

百瀬 文晃 神父

シリーズ 地区だより VII

家庭へのチャレンジ

我が家では今、娘が熱心に信仰に関する記事を読んでいて、更に週二回のミサにも出席しています。私は聴力が相当悪くなって会話もうまくいってなく、その他の理由もあって一緒に聖書の勉強をすることはありません。

私はキリスト教映画を観て信仰に入りましたが、他方ヒトラーのユダヤ人虐殺に憤りを感じてその分野から始まって旧約聖書にも拡がっていきました。しかしイスラエル史の本は高価なので手が出せませんでした。十五年程前に古代イスラエル史を求めて読んでみると、イスラエル王国史以降のことは旧約聖書の理解に大変役に立っています。

気まぐれな性格ゆえに、私は聖書に集中することはなく、あれこれに手を出しています。そのために私の信仰は成長していません。しかし入信して五十年くらいになりますが、なんとか日曜ミサには出席しています。

今の悩みは説教の部分がほとんど聞こえなくなっているので、音響装置を改善してもらえないかと思えます。

安岡地区 仲里 譲

青海荘訪問 10/1 (土)

10月1日(土)幼いイエスの聖テレジアの祝日に青海荘を訪問しました。

大住信徒代表のユーモアを交えた挨拶で始まり、池田さんが指導されている文関小学校の児童達が着物姿で日舞を披露すると、あちこちから「可愛い～」と声がかかり、手拍子とともに曲に合わせて口ずさんだりされていました。

次に木下さんのリハビリ体操や三上先生のリードで「大きな栗の木の下で」を合唱しながら体を動かしたりと、楽しいひと時を過ごしました。

お別れの時に「また来てね」と声をかけていただいたのが、今でも心に残っています。

テレジアの謙遜と素直さに倣い、来年の訪問へとつなげていけますように。

感謝と祈りのうちに。

M・T



*歌に合わせて、敬老の方々と共に体を動かして・・・。

ボニー神父さまのご家族来日 10/1～8
ようこそ!! スワーガタム(マルヤラム語)

東京・広島を経て、下関へは5日夜に到着されました。あくる日の午前は水族館「海響館」で楽しまれたご様子。午後からフランシスコ・サビエルが布教を許された地、山口へ。サビエル記念聖堂を李神父さまの案内で見学、瑠璃光寺五重の塔の散策は夕方近くになりましたが、心打たれたようです。

夕暮れの中をケララ会主催(宇部地区の信徒の方々や山根神父、清水神父、片柳神父、オレギ神父)も交えての歓迎会が行われるカレー店「ナマステ」へ直行し、和気あいあいでのぎやかな食事会(ちなみに、ご家族のこの日の昼食もカレーでした)。

最後に山根神父さまの挨拶で「遠い日本にいる息子さんがとてもご心配でしょうが、ボニー神父さまは、こんなにも多くの方々から愛され大事に大切に思われていますので、ご安心ください・・・。」と、ご両親に話された言葉が印象深く残っています。

次の日の金曜日、インド式のミサでは、ボニー神父さまの祭服と、ご家族の祈りのことばに何か神聖なものを感じました。

神父のお父さまのジェームスさん、お母さまのメリーさん、妹のビニさんとご主人のアニッシュさんと元気いっぱい二人の息子のデビット

とダニエル、弟のビビンさんと奥様のアヨシヤさん・・・皆さま、お疲れさま！遠い国での日々はいかがでしたでしょうか。

言葉が通じなくても、笑顔の“おもてなし”。ご家族との出会いを用意してくださった皆さまに感謝しています。またお会いできますように・・・と、祈りつつ。

(同行してくださった、彦島教会の松本さん・真浦さんありがとうございました。)

近藤



* 金曜日のミサ、ご家族と共に。



ペトロ祭協賛行事 10/16

☆世界青年大会の報告会（教会ホール）



* DVD で様子を説明するボニー神父。

☆WYD参加者の感想☆

* 今回私がWYDに参加しようと決めたのは、以前演奏旅行でヨーロッパに行き、感銘を受けたことがきっかけでした。自園に就職しこのような機会をいただき、またヨーロッパに行けるのだ！という単純な思いから参加したのですが、実際に足を踏み入ると、クラクフの至る所でポスターや旗が掲げてあり、想像以上

に様々な国の若者たちのエネルギーで溢れかえっていることに驚きました。ヨーロッパの石畳を歩きながら、すれ違う若者とハイタッチし、その場でお土産を交換し、写真を撮りあいました。世界中の人々に囲まれながら初めて野宿をし、1日を共に過ごしたことも良い思い出です。ミサでの、人種、言葉、国境を越えて、皆の心が一つになった瞬間の空気と言えば、名状しがたいものでした。ホストファミリーの方も心温かい方で、ありがたいことにまわりの方々にも本当に恵まれていました。普段は絶対にできないようなことを、ここには書き尽くせないほどたくさん経験できました。参加させてくださった自園の先生方には本当に感謝しています。貴重な体験をありがとうございました。

天使幼稚園 福田 真希



右から2番目が福田さん、3番目が伊藤さん。

* 私がWYDに行って一番に感じたことは、受け入れる心、人のあたたかさです。WYDの期間中、様々な国のの人たちに出会いました。私にとっては、名前は聞いたことがあってもどこにあるか分からない国や、名前すら聞いたことがない国の人もいました。ですが、その国の人たちは私たちが日本人だとわかると「コンニチハ」や「アリガトウ」を言ってくれたのです。また、日本語を知らない人も「How do you say hello in Japan?」と、日本語の挨拶は何と云うのか聞いてくれて、日本語で挨拶をしてくれました。日本語が世界の色々な国で知られていること、また知らなくても知ろうとしてくれること、言葉を受け入れてもらえることで私自身も受け入れてもらえているようで、そのことがとても嬉しかったです。だから私も出会った人の国の言葉で挨拶をしたいと思い、英語が苦手だからとしり込みするのではなく、勇気を出して話をすることができました。受け入れてもらえること、受け入れることで、言葉の壁はあっても心の壁は無くなったように感じました。

どこの国の、どんな人でも、出会う人一人ひとりが優しくあたたかい人たちでした。WYD期間中に案内やボランティア、ホームステイを受け入れて方たちのあたたかさにも感謝の気持ちでいっぱいです。信者ではない私を、カトリック幼稚園の職員として受け入れてくださり、WYDに参加する機会をくださった教会のみなさんからも、あたたかさを感じています。私がいただいたたくさんのあたたかさを、これから周りの人たちや幼稚園の子ども達にかえていきたいです。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

天使幼稚園 伊藤 雪絵



*うどん、おいしかった！



*ペトロ券会場、白いお面の方はだぁーれ？

ペトロ祭 10/23 (日)

私たち新地筋川地区はペトロ祭の担当地区でした。最初はどうかと心配しましたが、沢山の皆様方に助けられて無事に大役を果たすことができました。私たちはうどんの担当でしたが、みんなの協力により和気あいあいと楽しく地区の力が一つになり、他の地区の方々にも助けられて、神さまのお恵みより、うどんの担当を果たすことができました。どんなことも皆が喜んで協力し合えば達成できると感じました。協力してくださった方々と共に、神に感謝！

ペトロ祭実行委員 新地筋川地区

*焼きそばでは若者チームが活躍。



いつも、ありがとう！

*彦島教会の方々がチヂミ作りを。

◇ お願い ◇

10年後の新しい教会づくりを目指して
— 聖堂再建のために献金のおお願い —

わたしたちの教会は建築から60年を過ぎ、耐震基準を満たしていないため、10年以内の建て直しが必要であり、山口・島根地区長からも聖堂再建を勧められています。すでに、「教会建替え委員会」が発足し、建築計画の検討に入りました。同時に資金の積立を始める必要があり、献金の受付を開始いたします。ピンク色の「建設資金積立献金」封筒をみなさんに配布させていただきます。

10年後の新しい教会、「たとえ小さくても、みなさんが集まりやすく、喜びをもって祈り、神さまと出会うことのできる場所、若い人々をも引きつける魅力的な家（百瀬神父）」を目指して、おひとりおひとりが無理のないように、まずは毎日100円、毎月3,000円から4,000円、毎年50,000円（目標として）、コツコツ献金をお願いいたします。

この積立献金は新しく社会にでられた方々（在籍信徒含む）にも配布させていただきます。日々のお勤めは大変でしょうが無理のない額で教会再建のために、皆様のご協力をお願いいたします。